

第2回 三沢市男女共同参画計画策定委員会 会議概要

1 日時:令和3年8月25日(水) 10時00分~11時26分

2 場所:市役所本館4階大会議室

3 出席者:(1)策定委員 委員長 石岡 裕通
副委員長 岩本 ヤヨエ
委員 伊澤 タネ
委員 林 光利
委員 桐原 賢哉
委員 小向 香織
委員 三浦 隆司
委員 長堀 晶
委員 保坂 梨恵
委員 新山 勉

(2)事務局 政策部長 佐々木 亮
同部広報広聴課 東 直実
同部同課課長補佐 馬場 洋一郎
同部同課市民協働推進係長 宮木 ひと美
同部同課市民協働推進係員 宮古 真由美

4 会議概要:

○開会

○自己紹介

○案件(1)骨子(案)について

(2)第3回策定委員会について

事務局(馬場課長補佐):

案件に係る概要説明

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
石岡 委員 長(議長)	・婚姻率とは具体的にどうやって出しているのか?	・婚姻率については千分率という形をとっていて、千人当たりにつき何組の結婚があるかということ。三沢市の4万人のうち千人に対しては6組程度の婚姻があるという計算になっており、この表の数字に40をかけた数字、毎年240組程度が婚姻しているということになる。

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
石岡委員長（議長）	<p>・あくまでそれは、いわゆる法律婚という意味か？市役所に婚姻届・離婚届を出した方ということか？</p>	<p>・そうである。婚姻届が提出された数を市から県に報告し、県でまとめたものを再度こちらにまとめている。</p>
岩本委員	<p>・三沢市は自衛隊の方や、六ヶ所の原燃関係の方が多いのではないかと、ほかの市町村に比べて平均年齢が低いとか若かったと思う。そういうところも婚姻率や、出生率に関係してくるのでは。もし将来的に自衛隊が減った場合、他の町村のように平均年齢が引きあがってくるのではないかと。決して喜ぶようなことではないと感じる。</p> <p>・第一回会議の後、様々な要望を申し上げたが、よくここまできれいにしっかりとまとめて下さったと驚いた。</p> <p>・確認だが、第二次プランの方では基本目標、課題、施策の方向の次に、具体的な施策というのがあった。この施策の方向と具体的な施策がダブっているようなところがあり、どのようにまとめるべきかと思っていたが、今回はなくなっていた。この具体的な施策はなしにするのか？</p>	<p>・この体系図においては、具体的な施策というものは現在記載していない。先ほど申し上げたように、10年で計画を作るのでこういうものを行っていくという形であまり細かく設定はせずに抽象的な表現にしている。</p> <p>・第2章の計画内容の中で、具体的な中身の部分に記載したいと考えている。</p>
岩本委員	<p>・良いと思う。現行計画から新計画の変更項目で、策定の背景、国・県・市の動きが国際社会の動きに代わることも良いと思う。</p> <p>・また、なぜこういう風に色を使うのか、説明を聞いてなるほどと思った。ただ単に、「誰もが」というところで性的マイノリティの方を意識したと思っていたが、そうではなくてもっと深い意味があったのだということが分かった。</p> <p>・第3次みさわハーモニープランの「だれもが輝ける社会を目指して」というところ、良いと思うが「女性が輝く社会」という言葉などはよく使われるものの、別に女性は輝かなくてもいいのにと私はいつも思う。普通に暮らせればそれでいい。ここを少しSDGsと絡めるのであれば、「だれもが輝ける」のところは、「だれもが生きやすい」とか「だれ一人取り残さない」というような言葉を使うといいのではないかと。</p>	
石岡委員長（議長）	<p>・補足というわけではないが、高齢化率について。65歳以上の人が人口全体の何パーセントを占めるか、正確な数字は忘れたが、三沢が25パーセントほどで断トツに低い。青森県全体でも32～3パーセントで、津軽の方の鱒ヶ沢かどこかで、48パーセントだった。それから考えると、大体結婚する人っていうのは若いとか青春時代の人が多いことから、三沢市は婚姻率もいいのだろうという気がしている。</p>	

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
保坂委員	<p>・やはりその婚姻率、出生率の話で、三沢やおいらせという地域は非常に高齢化率も低く、将来、確か2040年においても確か高齢化率が三割ちょっとぐらい。県内の中では比較的若い人が多い。</p> <p>・その背景を考えると、どうしても自衛隊の方々や原燃の方々が多いという産業面での影響が非常に強いのでは。この出生率が多い一方で離婚率が多いという点は、母数が多いからという面もあるが、離婚をしたときにお子さんをどちらが引き取っているのか。例えばお父さんが引き取っている場合、お母さんが引き取っている場合、いろいろあると思うが、やはりそのひとり親の方々に対する支援というのは、これからの課題になってくるのではないか。</p> <p>・また生理用ナプキンの配布、もしかしたらお父さんが引き取ったけれどもなかなか女性の生理について教えてあげられない。当然経験のないことなので教えられなかったと。逆にお母さん、もしかしたら非正規雇用であまり収入がない。このような場合、生理用品が買ってあげられないことにはこういう背景が潜んでおり、単純にSDGsにおけるジェンダーの平等などではなく、貧困の問題というのも非常に関わってくる話。市でもこういったデータをどんどん突き詰めて分析していく必要があるのではないかと、私自身も今回頂いたデータを見て強く思った。</p> <p>・現行計画から新計画への変更項目について、用語集が付いたところがとても良い。ただ、基本計画に載るような用語集難しい言葉で書かれることが多いと感じる。計画に対しての用語集はそれでいいかもしれないが、市民の皆さんに分かって読んでもらえるものにするために、多少かみ砕いた用語集のようなものがあるとより男女共同参画に関する理解が進むのではないか。</p>	
伊澤委員	<p>・高齢化率は、自衛隊の方々を抜いたものを出せないものか？(事務局:はい。)</p> <p>・三沢市はかなりその部分で他と異なる。自衛隊の方々が抜けたら、三沢市もさほど変わらない高齢化率になると思う。そこを比較しなければ、分からないのでは。自衛隊の方々がいないければ、高齢化率はかなり進んでいるはず。介護保険のデータをなどで分からないものか？自衛隊の方々にかなり助けられているように思う。</p>	

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
石岡委員長(議長)	・三沢市の住民4万弱の人口で職業を分けて高齢化率が何パーセントか調べるとするのは難しいのでは？	
伊澤委員	・難しいと思う。自衛隊の若い方々が入っているからならされている。安心してられない部分があると思う。	
石岡委員長(議長)	・安心していいのかということは何とも言えないと思うが。 ・三沢市の町の形態からいうと、まず基地があり、自衛隊の方もいれば基地従業員の方もいる。原燃に通っている方もいる。若い人が働ける場所があるというのが特徴的。	
保坂委員	・そういった特徴を踏まえながら、他の市町村の動向なども掘り進めなければならないのではないかと。	・今のスライドの高齢化率、これは新聞の切り抜きだが、ここ4、5年ぐらいはやはり三沢が断トツに高齢化率が低い。こちらが26.4パーセントくらいになっている。やはり原燃の方々や自衛隊の方々が絶えず一定量住民として入ってきているために、高齢化率が低くなるという現象がずっと続いている。
伊澤委員	・私は相談を受ける立場だが、離婚すると子供さんたちに6万~8万くらい生活費を払わなければならないのだそうだ。そうすると二度ともう結婚できないという人がいる。これを何とかしてくれと私に言われる。私でなんとかできる問題じゃないと濁しているが。祖父母が、早く次の結婚をという、この給料でどうやって養っていくんだと。20数万貰っても7万程度を妻や子供たちの分を払っているのだそう。そういうところをもう少し何とかしてもらえれば、もしかしたら再婚がしやすくなるのでは？	
岩本委員	・まさに今の問題は、男女共同参画の問題だと思う。女性も仕事をし、ちゃんとした収入があるのであれば、夫の収入に頼らないで生きていける、女性が男性を選ぶというかそういう時代になっていければいいと思う。 ・また、高齢化、高齢化とみなさん心配するが、もう人生100年時代になってきていて、もう80歳くらいまで元気に働かなければ、100歳まで安心して生きられない、生活できない。今の80歳くらいの方はとても元気だ。昔と変わってきていて、80歳まで働ける職場が三沢市があれば、女性でも非正規ではなく子供を養って自分も生活できるということになれば、子育て資金を援助してもらわなくても、生活していけるようになればいいと思う。	

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
新山委員	<p>・皆さんのお話を伺っていて、やはり今までは60歳で定年になっており、国や自治体、各企業は最高で65歳まで使っていく(雇用)というのをやっている。さらに65から70歳、みちのく銀行さんのお話では70歳まで雇用の延長をみていると伺っている。</p> <p>・例えば私は保育士の免許を持っている。経営者の方の中には、男性だから女性のような繊細な部分がないので、女性の方が雇用しやすいという方もいるかもしれない。同時に、男性のキャラクターを重宝するような考え方を持つ経営者の方がいれば男性もいいと。例えば、30代、40代の方が保育士ですとか、介護福祉士ですとか、使ってもらえるのが非常にありがたい。</p> <p>・先ほど、私や岩本さんが申しあげた人生80年100年ということで、働ける場所があるのであれば、そこはぜひ男女の性別の区別なく雇用していただきたい。男子も女子もそれぞれメリットがあり、同じように勉強をしてきた。お互いのキャラクターを生かしながら、男性は男性の父性を全面的に生かして子供たちの世話をする、あるいは女性は女性の特徴を生かして、男性女性のいい所をお互いに出し合って施設の子供達たちの面倒を見る。ぜひ三沢市も女性も男性も同様に。</p> <p>・年齢が進むにつれて、体力も衰えてきてだんだん頑固になってくる部分も確かにある。だが、そこは考えていただいて、働けるうちは男性も女性も平等に社会に参画できるような仕組みをこういう場を通じて盛り上げてもらえればありがたい。</p>	
長堀委員	<p>・貧困の裏には、稼いでいくということ、安定的に稼ぐということがあるかと思う。うちの会社はIT関係の会社で私が移住出来たのも、ITの促進による場所や時間に囚われない働き方が出来ているというのが実体験として根底にある。</p> <p>・移住したときに特に思ったのが、三沢はリアリストの方が多いということ。東京だと夢を追い稼ぎながら進んでいくという形がまだ出来るが、現実的に生きる、食べるための仕事というところで構築されているのかなど。</p> <p>・どうしても若者を地域に残すという意味で、夢を追いながら暮らしていけるような形、それには時間や場所に囚われないIT活用、働く場所は三沢、その先にいるお客さんや相手にしている人というのは全国、世界にいるというような仕組みを少しずつ取り入れていくことが出来</p>	

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
長堀委員	<p>ば、今このテーマにある築き上げていきたい未来に少しでも後押しになるのではないかと。</p>	
石岡委員長(議長)	<p>・私が就職するあたりは男の初任給がいくら、女の初任給がいくらという差別があった。今そんなことしたら社会問題になるし、男の給料いくら女の給料いくらというのはもう絶対だめだと。30、40年前のそういうことが当たり前のようだった頃から見れば、男女共同参画は少しずつでも進歩はしているといえるのではないかと？</p> <p>・ただ、いきなりここが違うでしょといわれても直せる場合もあるし、直せない場合もある。</p> <p>・こういう男は女はと言っていた時代からすると進歩しているなどと思う。</p>	
桐原委員	<p>・今説明頂いたものに学校教育が関係している項目があった。例えば、幼少期からの地域教育の仕組みが必要、教育における男女共同参画の推進、地域のキーマンによるけん引だけでなく、個性と性を尊重した教育の実施、12番の教職員への研修の実施、13番にも個性と性を尊重した教育の実施とある。できれば具体的に学校教育にどんなことが求められているのかを、ざっくばらんにお聞きしたい。</p> <p>・実際のところ、男女共同参画という名称での学校教育というのではない。性差による違いに配慮するとか、平等だったり相手に対する尊重だったりなどはあるし、中学校では男女協力して物事を行うという内容で勉強することはあるが、男女共同参画という言葉は中々出てこない。</p> <p>・多分この施策の後に学校教育における何とかというのが出てくる可能性がある。第二次プラン作成の際にもそういう表記があったので。そうすると私も委員の一人として関わる上で、学校ではこれをどういつもりで取り組みに入れたのかということを知りたくなると非常に困る。ここで答えられるとは限らないが、一般の皆さんの中でこういうことが必要なのではないかとということをお聞かせ願えないか？</p>	
新山委員	<p>・例えば一般的な話で、各家庭で皆さん方、お父さんが一番で大黒柱、お母さんがご飯の支度をしている、それがいいとか悪いとかではなく、一般的に子供が生まれると家庭が鑑になる。学校の前に、自分が育てられたお父さんお母さん。その家庭で男が一番で、女が二番、あるいはお母さんの給料が多いから一番、お父さんが二番という家庭があったとすると子供というのはそれを見て</p>	

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
新山委員	<p>育つ。それが学校にいても児童館にいても保育園にいても、どこかで出る。例えばうちの家内は、児童センターで働いている。話の中でセンターに来る子供たちというのは大抵学校での緊張感が解けて羽を伸ばしている。すると「うるせえこの野郎、しね」というような言葉遣いをするそうだ。そういうのは学校の先生がどうのこうのというのではなく、多分各ご家庭のそういう環境の中で育てたという背景があると思う。そういった時に学校ではあなたのところの家庭がおかしいということではなく、一般的に世の中というのは生まれたときに動物も人間も命があって男と女という性別があるんだけど、みんな一緒なんだよと、常日頃から学校の先生方がそういう受け答えをしていけば、今先生がご指摘したようなところが学校の中での流れを少しでも変えるような仕組みに繋がっていけないのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あくまで子育てというのは、ご家庭の中でというのが基本。学校の先生方も今から30年40年前の教師像ではないと思うし、部活など見ている昔は学校の先生方は給料に関係なく学校が終われば土日でも面倒を見て自分を顧みることなくやって下さった先生方も沢山いた。だからと言って今が良くて昔が悪いということではないが、今までの流れを見ると、今実際に学校の先生方ができることにも難しい所、限度というものがある。その学校の中で子供たちに話ができるような機会があればいいのではないか。 ・未だに恐らく、子供たちは「お父さんお母さんに言うよ、学校の先生に言うよ」というと、子供達の雰囲気シャキッとなくなるところがある。子供たちにとって学校の先生というのは抑止力が多分にある。そういう部分を学校の方も支援して子供たちに接していただければいいと思う。 	
岩本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の中で一番男女が平等なのは学校ではないか。 ・学校教育の中では、ジェンダーギャップ指数が先進国最下位の日本でも、学校の中では男女平等が保たれているように思う。 ・男女同じように教育を受けている。ただ、せっかく学校で男女平等と教育されているのに家に帰った途端に、新山さんがおっしゃったように、家庭の中の男女不平等はいまだに根強くある。 ・この男女共同参画に限らず何でも、こういった困り事ややりたいことがあると、学校にお願いが行ってしまう。 	

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
岩本委員	<p>・確か平成27年4月頃だと思うが、性同一性障害の子供に対する細やかな配慮をするようにというような通達が出たが、文科省から出ていたかと思うが記憶にないか？ （桐原委員：日付までは正確に分からない。日々いろいろな通達が来るので。）</p> <p>・この性同一性障害の子供達。正確には分からないが、社会の中にそういう性的マイノリティの人が7パーセントぐらいいるのではないかと推測されている。そうすると例えば30人学級があったらひとクラスの中に2人ぐらいは性的マイノリティの子供がいるかもしれない。左利きの子供と同じぐらい。でも隠しているから分からない。そういう子たちはとても悩んでいて、自殺に繋がることが多いので、細やかに配慮しなさいという通達だったかと。そういうところを学校の先生方もより理解していただかなければいけないのと思う。</p> <p>・防災の話になるが。防災で避難所の運営訓練というのを活動としてやっている。避難所の設営訓練の中で、こういうことを教えているかということ、女性も避難所のリーダーになろうということ。</p> <p>・先ほどナプキンの話が出たが、支援物資が来た、支援物資の係の人のところへ行けばナプキンももらえると聞いた、でも避難所のリーダーが男性しかいなかったと。東日本大震災のあたりまではほとんど男性が取り仕切っていた。町内会長さんは男性が多い。女の子たちは男性のところにはナプキンだけではなくてブラジャーなどもらいに行っても男性にサイズを聞かれると中学生などは、しゃべれずもらえずに帰ってきってしまう。</p> <p>・私みたいなおばさんが、ナプキンに類似するようなものが欲しくてもらいに行くと、あなたはまだ生理があるのか？なんていわれて帰ってきってしまう。そういうことがあるので女性もぜひリーダーになっていただこうと。</p> <p>・また、そういう非常時にだけリーダーになりますといっても信頼関係が築けていない。だから日常平時から女性も地域のリーダーになっていかなければいけないんだということを私たちは今、中学校に行き行って教えている。</p> <p>・学校教育の中の防災というと避難訓練ばかりでそういったところまではなかなかいかないということだ。もしそういう機会があったら是非私たちを呼んでいただきたい。外部の人間を呼んでいただいて、先生方もしっかりとお話を聞いていただけるといいと思う。</p>	

言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
新山委員	<p>・今の岩本さんのお話にちょっと補足といいますか、お話をさせていただきたい。私、三沢市町内会連合会の理事もしている。各町内会を見ると女性の町内会長になっている人が少ない。</p> <p>・今度何かの会合があったときに中町連から三沢市の連合町内会に、日ごろから避難所の運営については各町内会で役割を決めておき、有事の際には女性の方々が避難所の運営を司れるような仕組みを作っていけるように私も微力ながらどんどんアピールしていきたいと思う。</p> <p>・コロナが落ち着いて、皆様方のお話が聞けるような機会を設けることが出来るようならぜひ、実際に中町連の研修会などにもお越しいただき講話していただいて、女性が進出していきやすい町内会がこれからどんどん増えていけばいいと思う。</p>	
保坂委員	<p>・今のまさに教育という項目があると、学校の先生方にすごく負担が行ってしまうということを私も心配している。確かに教育のしやすさという観点で、学校という組織は非常にやりやすいように思うが、先生方の負担というのは年々増しているのではないか。</p> <p>・こういった教育という分野、それを全部学校に任せるのではなく、学校が得意とする分野、逆に民間が得意とする分野、自治体がやるべき分野、そこをやはり整備してこういう計画を策定するべきではないか。</p> <p>・私も働き方改革という分野を専門にしている。学校の先生が生徒さんのために、本来やるべきことに集中できるような環境を作ることが結果的には、納得のいく教育に繋がるのではないかと思う。</p> <p>・家庭環境というのは、そのお子さんがどういう風に育ってきたのかということだけでなく、親御さんも社会に出たとき、会社でもしかしたら「女だったらそんな重要な仕事は任せられないよ」という風に後付けて教育されてしまうと、それがどんどん再生産、再生産されてしまうといった現実もある。やはり教育という部分について担任や学校任せにするのではなく、あらゆる階層において取り組むことが必要なのではないか。</p>	
岩本委員	<p>・政策の体系のところ、性的少数者への理解で何か文言を入れられないかと思う。次回で構わない。</p>	

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
小向委員	<p>・皆さんの意見を聞いて、私も非常に学校の教育の姿勢を思っている。長期的に、学校教育の中で男性女性に係わらず、将来子供たちが自分たちの力で生きていくことの大切さを出来れば教えていただき、それが本当に必要なんだということ、また子供たちが自分達で考えるということを教えていただきたい。中期的には、柔軟なチーム制度が取れるような多様なサポートが必要なのではないか。</p>	
		<p>・今回ご検討いただいた骨子案、皆様からたくさんのご意見を頂戴した。これらを参考に骨子案、第2章の計画の内容の方に盛り込ませていただきたい。具体的な施策などを網羅した計画の内容部分を作成し、11月上旬を予定している次回第3回策定委員会にて、また皆様のご意見をいただければと考えている。</p> <p>・開催日時については、決まり次第事前にお知らせいたします。また、素案についても固まり次第送付する。今日述べきれなかったご意見についても、随時募集する。作成スケジュールや、担当課との調整の兼ね合いなどから全てを反映させることは難しいかと考えるが、メール、FAX、様式を問わず、今日お渡ししている意見書等を使いながらご意見を頂戴できればと考えている。</p>

○閉会